

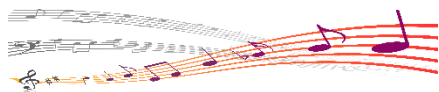
かわぐち合唱団ニュース 第13号

2016、12、14



かわぐち合唱団 代表、小川 喜也

音取りも楽しい！！1



音取りも楽しい。地道な作業だけれど、他のパートのメロディを聞きながら秘密の扉を開く気分で聞くことができます。ハーモニーが構築されて、すばらしい曲になっていくと思うと音取りも楽しいです。

どのパートも大切！素敵なハーモニーになるまで、各自大変ですが、皆さん楽しみましょうね！

12月14日の練習から

村の小径：素朴にしみじみ感を出して。



- ・上アルト結成 (古後、長谷、柴崎)
- ・メロディを、下のパートが支えてあげて
- ・2小節単位で音の流れをつかんで
- ・出だし、下アルトとテノールは、3拍目で動くことに注意
- ・(この道 ホロホロ) (のうさぎとぶーぞ)、ソプラノは1拍目から入るので注意
- ・sempre humming: ずっとハミング
- ・たぬぎのはなし: 「たぬぎの」の後でブレスしないで続けて歌うこと。

(愛の讃歌)

2番: アルトは表情たっぷりと思いを込めて。

- ・ほほとほほよせて: 「て」は、フェルマータ
- ・あなたとふたりで: 「で」はフェルマータ
- ・なんにもいらない: 「い」はフェルマータ。「何にも」はもっと感情をこめて、言い直す気持ちで歌詞を伝えること。



男性の声に乗っかり、ソプラノがころころところがり歌い、アルトがカルメン風の半音階のメロディをセクシーに歌う。

- ・いきっていくの: 「いくの」は「い」で統一。「ゆ」と歌わない。
- ・あなたとふたり: 「と」はフェルマータ。「で」は rit で、ポルタメントして「アー」

〜〜〜団員から投稿 第1号:〜〜〜

父の古時計: Yさんから



「大きな古時計という歌があるが、私はその歌と父がどうしても重なってしまう。父は時計店を営んでいた。そして、昨年5月、数え年百歳で他界した。まさに大きな古時計そのものの人生だった様に思う。

その時計店の標準時計であった掛け時計は (私の背丈とほぼ同じ150センチほどの大きさ) 今も、私の家の廊下でチクタク、チクタク動いている。時計店であったので、歌の様にもう動かない状態にはしておけません。(笑)

この歌を聴くと (歌うと) 何故かこみあげるものが、ある私なのです。」

皆さんも是非投稿してください! 待っています!